

徳島大学 国際センターニュース

<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/>

No.12

2009.11

国際センター長からのごあいさつ

国際センター長（学長補佐 国際関係）
ヘルスバイオサイエンス研究部 口腔分子生理学分野 教授

細井 和雄

徳島大学では2002年4月、文部科学省省令施設として、「留学生センター」が設置され、留学生に対する日本語教育の効果的な実施及び留学生の社会生活への適応上発生する種々の悩みに対するきめ細かな指導援助を行ってきました。

留学生指導・支援の事業は、研究者交流の事業と相互に深く関わっているためその連携強化は重要な課題であります。「留学生センター」設置後も、国際交流の推進に関わる情報の収集や交流を推進する環境の整備等の機能を高めるための常設機関が求められており、2005年4月に徳島大学国際連携推進室によって策定された「徳島大学国際化ポリシー」の中でそのような組織の設置が提案され、2008年12月、「国際センター」発足に至りました。

徳島大学「国際センター」には、これまで「留学生センター」が実施してきた留学生の受入支援等の業務と留学生教育（日本語教育、相談・指導支援）ならびに日本人学生の海外留学を支援する活動を引き続き担当する「教育・支援部門」と、これに加えて新たに、国際展開を推進するための業務を担う「交流部門」を設けました。さらに国際交流事業に関する高い専門能力を有する「国際プランナー」を配置し、国際化推進を強化するとともに、各部局から国際センターへ「協力教員」の派遣を依頼し、国際化事業が全学的に推進される体制を整備しました。

「国際センター」発足後は、教職員一同これまでも増して大学のため、地域のためお役に立てる様、邁進する覚悟でありますので、学内外の諸兄には倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



国際センター概要

これまで、留学生センターでは、留学生を対象とした日本語教育、指導・相談支援、ならびに日本人学生に対する海外留学支援を提供してきましたが、2009年12月の国際センター設置に伴い、上記の2部門1室（「交流部門」、「教育・支援部門」、「文書広報室」）体制へと移行することになりました。

旧留学生センターで提供してきた各種教育・指導業務は、「教育・支援部門」に集約する形で引き続き提供していきようになっていますが、今回新たに設置した「交流部門」、「文書広報室」では、それぞれ国際交流事業の立案・実施、文書の英文化ならびにセンターホームページの充実を手掛けるようになっています。

また、各学部から選出して頂いた協力教員と連携することで、留学生・日本人学生に対するよりきめ細やかな支援サービスを展開していくようにしています。



2009年春期日本語研修コース開講式

❖ 交流部門 ❖

2008年12月、「国際センター」の設置に伴い、新たに国際展開推進するための業務を担う「交流部門」を設けました。「交流部門」は全学的な国際交流事業を実質的な側面から支援するという点で同センターの中核を担うものです。各部局で展開している各種国際交流事業を支援し、またセンター独自の交流事業を展開することで、全学的な国際交流の活性化を目指しています。



2009年 常三島地区留学生ガイダンス

❖ 教育・支援部門 ❖

従来は留学生への日本語教育及び生活指導相談と日本人学生への海外派遣に関する教育活動のように対象別に行っていました。国際センター発足以後は、「留学生30万人計画」に基づき、「学内外の国際化」に向けて、教員5名が担当領域を互いに補完・協力する体制で、留学生と日本人学生そして地域へ総括的に働きかけ、業務を遂行しています。



2009年秋期 日本語研修コース

❖ 文書広報室 ❖

文書広報室では、センター業務に関わる広報活動、ならびにセンターホームページの充実を中心に業務を遂行しています。特に、センターホームページに関しては、基本的な徳島での生活情報なども含めた情報を提供できるよう準備を進めております。

国際センター 最近の活動から…

国際センターでは、現在様々な活動を展開しています。ここでは、そのうちのいくつかをご紹介しますと思います。

2009 年秋期「日本語研修コース」・「全学日本語クラス」スタート

10月8日から「日本語研修コース(秋期)」がスタートしました。今回は、文科省国費の他に学内応募者5名を含む14名が本コースで日本語の集中講習を受けます。国籍は様々で、モンゴル(1名)、エジプト(2名)、中国(1名)、インドネシア(2名)、ウガンダ(1名)、フィジー(1名)、パラオ(1名)、パラグアイ(1名)、ブラジル(1名)、スウェーデン(1名)、セルビア(1名)、ラトビア(1名)の学生が受講しています。「使える日本語」をめざし、10月から3月(月曜日から金曜日)までの集中講習を行っています。

また、主に大学院生、研究生を対象にした「全学日本語クラス」も始まりました。2009年度秋期では、初級レベルから中上級レベルまでの10コースが開講され、80人以上の学生が日本語を学んでいます。



卒業留学生同窓会

卒業・修了した留学生との連携を強化し、人的ネットワークを拡大していくため、2008年11月30日、徳島大学を卒業・修了した中国出身の留学生や元徳島大学外国人研究者ら50人が集まり、「徳島大学卒業留学生同窓会(中国)」を中国上海市で設立しました。徳島大学からも同窓会顧問として青野学長や理事・副学長等10数名の教職員が出席しました。今年度は韓国で同窓会設立を予定しています。



同窓会総会のようす

アジア人財資金構想

経済産業省と文部科学省の共催によるアジアからの留学生の就職を支援するプログラム「アジア人財資金構想事業」は、①ビジネス日本語教育、②日本ビジネス教育(企業文化)、③インターンシップを3本柱とし、週3回授業が行われます。現一期生は、内定者も出始め、現場で役に立つより具体的な学習項目で授業を進めています。2009年10月23日には「留学生のための就職支援フォーラム」が開催され、2期生5名がそれぞれインターンシップについて発表を行いました。



留学生のための就職支援フォーラム

サマープログラム支援



2009年 HBS サマープログラム

2008年度には、ソシオテクノサイエンス研究部（常三島地区）ならびにヘルスバイオサイエンス研究部（蔵本地区）がサマープログラム（受入）と短期研修プログラム（派遣）を実施しました。両研究部共に、今年度8月にサマープログラム（受入）を実施し、本センターおよび国際課で「日本文化研修」の立案・実施などを担当しました。

国際交流サロン

「国際交流サロン」は、留学生センター（現国際センター）が大学開放実践センターで行っていた公開講座「国際ボランティア入門ー徳島に住む外国人を支援するとは」の修了者有志とセンター教員とで月一回開催しています。留学生と日本人学生・地域の皆さんとの協働の場として毎月土曜日10時半から12時、その時々テーマで国際センターで行っています。



日本語ではなそう

◎今後の予定

- 11月21日 留学生の国への誘い(お国紹介)
- 12月 5日 茶道体験
- 1月16日 世界の料理を楽しもう
- 2月 6日 着物体験
- 2月27日 ひな壇飾り



国際交流サロン（阿波踊り）

日本人学生への支援

【English Chat Room】

英語チャットルームも今年で4年目となりました。昨年度後期より、週二回開催しており、毎回10名程度の学生や社会人が参加されています。

今後も継続していきますので、ふるってご参加ください。



場 所：常三島生協食堂二階 曜 日：毎週火曜・木曜
時 間：午後6時～7時半 参加費：無 料

日本人学生と地域と留学生を結んで

将来の日本語教員を養成するために、総合科学部の学生に対して「日本語教授法」「日本語教育方法論」「日本語教育演習」の授業を提供しています。また今年度からは共通教育「国際交流の扉を拓く」(創生学習科目)にお



いて、日本人学生と地域の皆さんに、そして留学生に、今私たちが目指すべき「国際化」とは何かを学ぶ授業を開講しています。

これらの授業は一方的な講義ではなく、受講者の積極的な参加を促し、授業内での対話を通して、まさにこれからの多文化共生社会に対応するには私たちに何が必要なのかを探求しています。

◆「日本語教育シンポジウム」について

第1回目は2009年6月13日に産業技術総合研究所研究員の栗原一貴氏をお迎えし、「教育向けプレゼンテーションツールの研究」という題で、教育現場で使えるプレゼンテーションツール研究について、実習を含めて講演をしていただきました。

第2回目は9月12日に、広島市立大学の岩田一成氏に「地域日本語教室におけるテキスト：『にほんごこれだけ!』について」を、名古屋外国語大学の尾崎明人氏に「多文化社会における地域日本語教育の在り方と方法を考える」を講演をしていただきました。地域ボランティアの方々を含めて、50人ほどの参加がありました。

また、第3回シンポジウムは11月7日、東京農工大学の越前谷明子氏に会話教育についてご講演をお願いしています。この12月から来年にかけて、第4回及び第5回を計画しておりますが、徳島大学の日本語の教え方をはじめ、様々なテーマについてシンポジウムを開催しますので、日本語教育に興味・関心を持たれている方はふるってご参加ください。



第1回 日本語教育シンポジウム



第2回 日本語教育シンポジウム

2009年度秋期

日本語関連授業

	月	火	水	木	金
8:40 ~ 10:10	日本語研修	日本語研修	日本語研修	日本語研修	日本語研修
10:25 ~ 11:55	日本語研修 新蔵 全学B 1	日本語研修	日本語研修 共通教育日本事情II 新蔵 全学B 1	日本語研修 共通教育日本事情IV 新蔵 全学D	日本語研修 新蔵 全学C 1-2
12:50 ~ 14:20	日本語研修 蔵本 全学A 1 新蔵 全学C 1-1 新蔵 全学C 1-2	日本語研修 アジア人財1期生	日本語研修 新蔵 全学C 1-1	日本語研修 蔵本 全学A 1	日本語研修
14:35 ~ 16:05	日本語研修 蔵本 全学A 2 新蔵 全学A 2	日本語研修 共通教育日本語8 蔵本 全学C 1	日本語研修 共通教育・国際交流	日本語研修 日本語教育演習 蔵本 全学A 2	日本語研修 アジア人財2期生 新蔵 全学A 2 蔵本 全学C 1
16:20 ~ 17:50	アジア人財1期生 アジア人財2期生 共通教育日本語4 新蔵 全学A 1	共通教育日本語6 蔵本 全学B 1	アジア人財2期生	日本語教授法II 蔵本 全学B 1	アジア人財1期生 新蔵 全学A 1

新しい国際課

現在、国際課は「国際交流係（常三島キャンパス）」、「国際企画係（新蔵キャンパス）」が業務を担当しています。その他蔵本キャンパスには留学生支援室がありますので利用して下さい。

国際企画係の主な業務概要

国際企画係は、日亜会館 2F 東側において、全学の国際交流に関する事務を行っています。

- ①国際学術交流及び留学生交流事業の企画・立案に関する事務
- ②国際連携推進室の事務に関する事、学術交流協定に関する事務
- ③国際交流資金による事業、国際協力及び海外との連絡調整に関する事務
- ④国際化推進のため企画・運営関係業務に関する事務

国際交流係の主な業務概要

国際交流係は共通教育 4 号館 1 階東側において、主として留学生交流に関する事務を行っています。

①入国管理局への取次申請

在留資格更新許可、在留資格変更許可、資格外活動許可、再入国許可、在留資格認定証明書交付申請などの申請取次を行っています。

②各種奨学金の申請

奨学金の情報は国際センターホームページに掲載するとともに、掲示板に掲示されます。申し込みたい奨学金があれば国際課事務室（蔵本地区は各学部の教務係）に書類を取りにきてください。

③国際交流会館、日亜会館の入居申請と延長申請

新規入居の時期は 4 月と 10 月です。入居、延長とも申込み時期は 1 月頃と 7 月頃です。

④住宅総合補償制度への加入手続き

民間のアパート等に入居するときには必ず加入してください。加入金に対する補助があります。

⑤日本語研修コース、全学日本語コースへの申し込み受付

4 月頃、10 月頃の年 2 回、日本語を勉強したい人の申込みを受け付けています。



国際センター、国際課 新任スタッフ紹介

国際センター



国際センター(国際プランナー) **竹内 光恵**

はじめまして。9月より国際プランナーに着任いたしました竹内です。今後の継続的な国際発展を目指し、学術活動の進展のためにお役に立てるよう努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

国際課



アジア人財キャリアコーディネーター **村上 和義**

現在、アジア人財資金構想において企業研修などのコーディネートを担当しております。アジア人財に参加してくれている留学生が一人でも多く日本企業に就職できるように頑張りますので、よろしくお願い致します。



国際課長補佐(兼 国際企画係長) **内海 剛**

歯学部第二総務係から来ました。内海剛です。国際課では、国際推進室会議関係及びアジア人財資金構想事業等を担当します。よろしくお願いします。



国際課国際企画係主任 **山口 百合**

本年4月から国際企画係に異動して参りました。各種予算管理業務を担当します。まだ分からない事も色々ありますが、これからの国際センター発展の一助に努めていこうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



国際課国際交流係事務 **川人 久美**

4月から常三島で窓口を担当しています。毎日留学生のみなさんと会えるのがとても楽しみです。少しでもみなさんのお手伝いができればいいなと思います。よろしくお願いします。



国際課国際企画係事務補佐員 **武市 依里**

10月1日から新蔵国際課で勤務することになった武市依里です。毎日新たな発見があり、楽しいです。3月末までですが、よろしくお願い致します。



国際課国際交流係事務補佐員 **平石 留美**

10月1日より国際課国際交流係(常三島)で勤務しています。よろしくお願いします。

留学体験記

アメリカ大学院留学 ～1年目を振り返って～

上畑 陽子

University of Pittsburgh

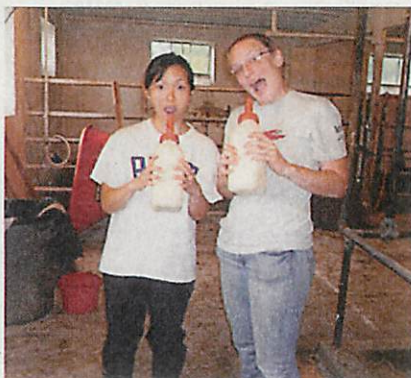
疾患酵素学研究センターの福井清教授を始め、多くの方々のご高配・ご協力により、2008年夏から、文部科学省（長期派遣制度）の奨学金を頂き、ピッツバーグ大学大学院にて臨床栄養士（Registered Dietitian, RD）になるための勉強をさせて頂いています。留学を志望した理由は、Intensive care unit（ICU）や臓器移植など幅広い分野で経験を積むことができるアメリカの臨床栄養士の仕事に興味があったからです。

ピッツバーグ大学は、ペンシルベニア州ピッツバーグ市にあり、大学のキャンパスが町中に散在する都市型の大学です。大学近隣にはコンピューター系で有名なカーネギーメロン大学、さらに複数の図書館や美術館、博物館が立ち並ぶ、美しい学問の町です。同時に、巨大なメディカルセンターが立ち並ぶ医療の町でもあります。

私の所属するプログラムは、RD 国家試験の受験資格と修士号（臨床栄養）が同時に取得できる複合プログラム（Coordinated Masters Program in Clinical Nutrition）です。他の大学よりも多くの時間を臨床実習に費やすことができます。留学生2人を含む15人の学生がともに勉強しています。第1学期は栄養アセスメントやカウンセリングなどの授業を受け、第2学期には、授業と並行して小中高校や老人ホーム、保険会社などで栄養に関するインターンシップを行いました。来学期から、ピッツバーグ大学メディカルセンター（University of Pittsburgh Medical Center, UPMC）にて1年間の臨床実習が始まります。臓器移植やICUでの栄養実習など、初めての実習先もたくさんあり、今からワクワクしています。

しかし、やっぱり英語の壁は大きいです。最初の1学期目が始まってすぐ、学生一人一人に症例が与えられ、その症例についてプレゼンをするという課題が課されました。自分なりに勉強はしていったものの、通じると思っていた英語も通じず、病気の名前や医療用語もどうしてもうまく発音できず、十分に内容を説明することもできませんでした。授業のあと、トイレに駆け込み、悔しくてひとりで泣いていたことを思い出します。Physical Examの実技試験では、実技に合わせて口頭説明をしなくてはならず、本当に無理だと思いましたが、今回は挽回してやろうと、友達に頼み何度も練習して挑みました。完璧ではありませんでしたが、一発で合格することができ、本当に嬉しかったです。来年からの臨床実習を少しでも有意義なものにできるよう、今は少しでも英会話や Medical terminology を克服しよう、日々英語と格闘しています。

脳科学者の恩蔵絢子さんは言っています。「ひとの眼ばかりを気にして失敗を恐れては、人生は固まってしまう。今ある自分は、そんなに価値のあるものか。人の評価を恐れて一喜一憂している場合ではない。」と。言葉がおぼつかないせいで、嫌な思いをしたり、赤っ恥をかいたりすることも多々ありますが、頂いた貴重なチャンスを十分に活かし、大いに学びたいと思います。そして、徳島大学大学院時代に、宮本賢一教授、伊藤美紀子助教のもとで学んだ「考えることの楽しさ」をもう一度臨床に生かすことを楽しみに日々邁進していきたいと思っています。



留学体験記

My Experience in Tokushima

Daniel Lynch

Exchange Student
from Florida Atlantic University
(アメリカ)

私の名前はダニエル・リンチです。この2年間、フロリダ・アトランティック大学からの交換留学生として徳島大学総合科学部で勉強しています。2年間の留学期間中、たくさんの文化差を体験しましたが、同時にたくさんの人たちとの強い絆も作ることができました。この体験記では、これらの体験をいくつか紹介してみたいと考えています。

最初、関西国際空港に到着した時は、とても不安でした…。当時、私が日本語で言えた言葉は「こんにちは」、「さようなら」程度でしたので、徳島行きのバスを探すのにも苦労しました。徳島駅に着いた時、当時の指導教員が北島国際交流会館まで送って行ってくれたので、とても「ホッ」としました。その指導教員は徳島での生活についてとても親切に説明してくれたのですが、同時に「これから色んなことがあるんだろうなあ…」と思いました。

最初の6ヶ月間は、徳島大学の日本語研修コースで他の留学生と一緒に日本語を勉強しました。新しい環境、新しい文化で生活・勉強するのは大変でしたが、日本語の先生方は私たち新しい留学生が置かれている状況をとても良く理解してくれましたし、できる限りの手助けをしてくれました。最初の授業では自己紹介の方法を学んだのですが、その後は繰り返し（Repetition）と様々な会話練習を通して日本語を勉強していきました。そして、色んなイベントにも参加して、少しずつ「使える日本語」をマスターしていきました。

一番印象的なイベントは、美馬町でのホームステイ、それに美馬の人たちに劇（「どんぐりと山猫」）を披露したことです。私がホームステイした家族には3人の子供がいたのですが、とても良い関係を築くことができました。ホームステイでは日本人の日常生活を知る上でとても良い体験ができたと思っています。劇では「山猫」の役をもらったのですが、衣装を着て頑張りました。美馬町の子供たちもとても喜んでくれて、劇が終わった後に私のところに来て、耳や尻尾を引っ張って遊んでいました。美馬で過ごした時間は、今でも私にとってとても楽しい思い出です。

6か月の研修コースが終わる頃には、日本語だけで会話ができるようになりました。その頃までは日本語が十分話せなかったのではなかなか日本人の友達もできなかったのですが、研修コースを終えて、「よし、サークルに入って友達を作ろう!」と考えました。

それからすぐに、私は徳島大学アメフト部に入部しました。子供のころからアメフトが大好きだったし、同じ興味を持つ人と会うのは良い経験になると考えたのです。部員ともすぐに打ち解けたので、毎日、日本語だけで生活するようになりました。友達と毎日日本語で話すようになったおかげで、日本語力が格段に上がったように思います。そして、日本に来てから1年後には、日本語でスムーズに会話ができるようになっていました。

この2年間で日本語のレベルも上がり、忘れることのできない思い出も数多く手にしました。今は、アメフト部での活動を続け、日本語能力検定試験に向けての勉強をしています。来年には徳島大学の修士課程（総合科学研究部）に進学したいと思っています。その後は、日本で仕事を見つけ、就職したいと考えています。

このように素晴らしい機会を与えてくださった皆様、そして徳島大学に感謝の意を表したいと思っています。本当に、ありがとうございました。



日本語研修コース 修了式にて

スタッフ一覧

国際センタースタッフ

国際
センター
長

細井 和雄 学長補佐(国際関係)
教授(ヘルスバイオサイエンス研究部[歯学系])

hosoi@dent.tokushima-u.ac.jp
088-633-7323

大石 寧子 教授

oishi@isc.tokushima-u.ac.jp
088-656-9875 (内 6212)

日本
語教育

Gehrtz 三隅 友子 教授
(副センター長)

misumi@isc.tokushima-u.ac.jp
088-656-7120 (内 6214)

橋本 智 准教授

hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp
088-656-9872 (内 6213)

留学
生指導
・
相談

金 成海 教授

kin@isc.tokushima-u.ac.jp
088-656-7543 (内 6215)

異文化
理解教育
海外
派遣

坂田 浩 准教授

kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp
088-656-7199 (内 6211)

国際
プラン
ナー

竹内 光恵 特任講師

takeuchi@isc.tokushima-u.ac.jp
088-656-7478 (内 9951)

国際センター 協力教員

全学的な国際化を推進していくには、各学部・学科との緊密な連携がカギとなります。各学部から選出頂いた協力教員と共にセンター業務を全学的に展開していきたいと考えておりますので、ご協力の程、よろしくお願い致します。各学部から選出頂いた協力教員は、以下のとおりです。

● ソシオ・アーツ・サイエンス研究部

田中 智行 准教授

● ヘルスバイオサイエンス研究部(医学系)

山西倫太郎 准教授

● ヘルスバイオサイエンス研究部(歯学系)

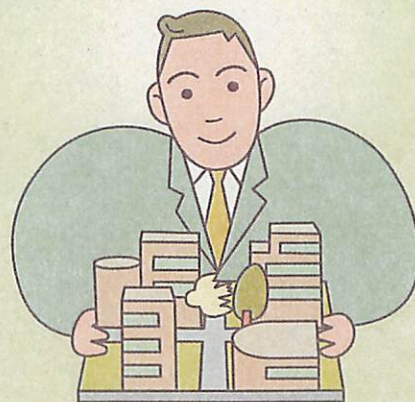
三好 佳子 講師

● ヘルスバイオサイエンス研究部(薬学系)

福井 裕行 教授

● ソシオテクノサイエンス研究部

村上 理一 教授



スタッフ一覧

国際関係業務スタッフ

役 職 名	氏 名	連 絡 先	備 考
研 究 国 際 部 長	吉 良 知 哲		常 三 島
国 際 課 課 長	岡 崎 房 述		新 蔵 (日亜会館)
国 際 課 課 長 補 佐 国 際 企 画 係 長	内 海 剛	ryugakus@jim.tokushima-u.ac.jp Tel : 088-656-7491 (内 6220)	新 蔵 (日亜会館)
国 際 企 画 係 主 任	山 口 百 合		新 蔵 (日亜会館)
	佐 藤 陽 子		新 蔵 (日亜会館)
国 際 企 画 係	鶴 田 典 子	ntsuruta@jim.tokushima-u.ac.jp Tel : 088-656-9950 (内 9950)	新 蔵 (日亜会館)
	武 市 依 里		新 蔵 (日亜会館)
国 際 交 流 係 長	原 雄 三	ryugakkc@jim.tokushima-u.ac.jp Tel : 088-656-7079 (内 7079)	常 三 島
国 際 交 流 係 主 任	古 城 浩 子		常 三 島
	川 人 公 美		常 三 島
国 際 交 流 係	尾 崎 綾		常 三 島
	平 石 留 美		常 三 島
ア ジ ア 人 財 キャリア・コーディネーター	村 上 和 義	asia-cdn@jim.tokushima-u.ac.jp Tel : 088-656-7902 (内 7902)	新 蔵 (日亜会館)
留学生支援室 (蔵本地区)	米 田 典 代	ryugaku@isc.tokushima-u.ac.jp Tel/Fax : 088-633-7398 (内 7398)	蔵 本 (蔵本会館)
国際交流会館 (北島)	佐 藤 浩 子	kaikan@mb.infoeddy.ne.jp Tel : 088-698-1244	北 島 国際交流会館



平成 21 年 11 月発行

発 行 徳島大学国際センター

住 所 〒 770-8501 徳島市新蔵町 2-24

Tel. 088-656-7082 Fax. 088-656-9873

E-mail : ryugakuk@jim.tokushima-u.ac.jp